

92 東京法学院第十三回卒業式・学事報告他

〔『法学新報』第八八号 明治三十一年七月二十日〕

○東京法学院卒業式

同院にては本月十五日午後二時より院内の大講義室に於て第十

三回卒業証書授与式を挙行せり、幹事奥田義人土方寧の両氏より同院の成績及将来の施設に関する報告演説あり夫より院長菊池武夫氏英邦両法学科の卒業生二百二十一名に一々卒業証書を授与し終て卒業生に対して諄々として一時間余の訓諭的演説を為し卒業生総代高木藏吉氏進んで答辭を朗読し次て來賓法学博士富井政章司法省職員課長奥宮正治両氏の演説及院友総代小松林藏氏の祝辭あり、右了て講師院友卒業生一同の撮影を為し、別室に於て立食の饗應ありたり、当日式場に列したるもの無慮七百余名にして來賓の重なるもの三好退藏氏、奥宮正治氏、梅謙次郎氏、富井政章氏外数十名たり菊池院長及富井奥宮両氏の演説は速記の儘論説欄内に掲ぐ又奥田土方両氏の報告は左の如し

○東京法学院学事一班

- 一 創立年月 明治十八年七月
- 一 学科目 法律学及経済学
- 一 修学年限 三ケ年(但研究科、高等法学科ヲ除ク)
- 一 学級別 一、二、三年級
- 一 講師(現在) 五十五人
- 一 生徒(現在) 千百五十八人(今回卒業の分二百二十一人ハ此他トス)
- 内 邦語法学科…八百八十五人 英語法学科…百三十一人
- 内 研究科…四十三人 高等法学科…九十九人
- 一 卒業生総数 二千二百五十一人
- 内 創立ヨリ明治三十年迄ノ分 二千〇三十人

本年卒業ノ分 二百二十一人 (英、一二邦、二〇九)

一 卒業生職業別

- 一 弁護士……………一四五
- 一 判検事……………一五四
- 一 高等官……………五八 (文武官及ヒ領事等ヲ包含ス)
- 一 判任官……………二七一
- 一 銀行々員及会社々員等…二二五
- 一 新聞雜誌記者……………二一

(備考以上ハ院友会二届出ノ者ノミヲ示ス)

一 本年ハ高等法学科ヨリ一名ノ卒業生ヲ出ス  
 一 議会展散ノ前ハ本院卒業生ニシテ衆議院議員タルモノ五名アリキ  
 一 次学年ヨリ本院の講師として専ら講坐の担任を為すべき旨の承諾を得たる者穂積陳重、一木喜徳郎、松崎藏之助、岡野敬次郎の諸氏の外新に数名の講師を聘する事に決定せり  
 以上は奥田土方両幹事の報告の要旨を示したるものなり、又院友小松林藏氏の祝辭卒業生総代高木藏吉氏の答辭を左に掲ぐ

祝辭

茲ニ東京法学院第十三回卒業証書授与ノ式ヲ挙ケラル不肖院友ノ列ニ連ナルノ故ヲ以テ此盛典ノ席末ヲ汚スノ榮ヲ得タリ欣喜何ソ堪ヘンヤ今ヤ諸君ハ深遠ノ学理ヲ攻究シ螢雪ノ効空シカラス正ニ其業ヲ卒ヘラレタリ今ヨリ之ヲ実地ニ応用スル

ニ於テ大ニ視ル可キモノアラン是レ諸君ノ業ヲ卒ユルヲ祝ス  
ルト同時ニ国家ノ為メニ賀セサルヲ得サル所以ナリ

惟フニ方今法律ヲ学フノ人其業ヲ卒ユルニ当リ之レヲ応用ス  
ルノ途一二出ツルカ如シ即チ法律其物ヲ直ニ運用セントスル  
ニ在リテ所謂法律ノ受売ヲナサントスルモノ、如シ故ニ或ハ  
弁護士トナリ或ハ判事トナリ或ハ行政官吏トナリシ人已ニ多  
ク又志望ヲ爰ニ借ク者尠シトセス是レ誠ニ其所ナルヘシト雖  
トモ然レトモ法律ノ学別ニ応用ノ一大新天地アルヲ知ラサル  
可ラス何ソヤ法律ヲ学フニ因テ不知不識ノ間ニ所得シタル論  
理的思想ノ応用之レナリ此思想ハ百般ノ事物ニ遭遇シ能ク迅  
速ニ能ク明瞭ニ其真相ヲ看破シ得ルモノニシテ農タリ工タリ  
商タルトニ論ナク諸般ノ事物ヲ整理スルニ於テ最モ必要ナル  
思想ナリトシ而シテ社会ノ進化ハ日ニ月ニ複雑ヲ極ムルノ傾  
向アルヲ以テ諸般ノ工商界ニ於テ是等ノ思想ヲ抱持スルノ人  
ヲ歡迎スルヤ雲霓奮ナラス実ニ諸君ノ手腕ヲ奮フノ地誠ニ広  
大無辺ナリト云フヘキナリ希クハ諸君唯ニ法律其物ヲ利用ス  
ルノミニ之レ勉メス法律其物ヨリ得タル特殊ノ思想ヲ運用シ  
之レヲ發揮シ以テ斯学ノ振張ヲ計ラレンコトヲ余ノ希望シテ  
止マサル所ナリ聊カ卑見ヲ陳シテ祝辭ニ代フ

東京法学院々友

明治三十一年七月十五日

小松林藏

答 辞

今歳明治三十一年七月拾五日東京法学院々長閣下及講師來賓  
諸賢ノ賁臨ヲ辱フシ茲ニ生等ノ為メニ卒業証書授与式ヲ挙行

セラル伏シテ惟ミルニ生等不敏ノ資オヲ以テ今日此盛典ニ列  
シ此幸榮ヲ享クル所以ノモノハ一ニ以テ院長及講師諸賢ノ薰  
陶指導多年其厚キヲ致セルニヨラズンバアラズ嗚呼其恩ノ鴻  
大ナル何ノ辞ヲ以テカ之ヲ謝スルヲ得ン加フルニ今又院長閣  
下特ニ優渥ナル論辭ヲ賜ヒ詢々將來ヲ戒メラル生等豈感勵奮  
激セザランヤ顧フニ生等ガ將來二期スル所ノ者千種万態ナリ  
ト雖尚ホ前述渺々水天ト接シ峻岩斷礁其前ニ峙チ暗雲迷霧其  
後ヲ塞グ一片ノ端艇ヲ籠シテ此劍難ヲ凌ガントスル者一朝腥  
風腫雨鬼哭シ天悲ムノ慘境ニ際シ坎珂落魄ノ悲運ニ沈淪スル  
コトアルハ固ヨリ將サ二期スベキ所ナリトス今ヤ纜ヲ解カン  
トスルニ際シ誓フニ深く嚴師ノ音容ト訓戒トヲ肝銘シ黽勉不  
撓素志ヲ全フセンコトヲ以テス若夫他日涓埃ノ功績見ルニ足  
ルモノアラバ庶幾クハ此光榮ト此鴻恩ノ万一二応フルヲ得ン  
カ不肖藏吉卒業生ニ代リ聊カ蕪辭ヲ陳シ以テ答詞ト為スト云  
爾

東京法学院第拾三回卒業生

總 代

明治三十一年七月十五日

高木藏吉

頓首再拜